

# 2009 年 7 月の東北地方の天候

## 【 7 月の特徴 】

○東北日本海側を中心とした寡照・多雨

○下旬の低温

### ( 1 ) 2009 年 7 月の概況

梅雨前線が本州付近に停滞することが多く、また、低気圧が北日本を通過することが多かったため、東北日本海側を中心に曇りや雨の日が多かった。南から湿った空気が入りやすく、低気圧や梅雨前線の活動が活発になり大雨となることがあった。なお、上旬と中旬は東北太平洋側を中心に気温の高い日が多かったが、下旬は、寒気やオホーツク海高気圧からの冷たく湿った東風の影響により、気温の低い日が多かった。

月平均気温は東北日本海側で低く、東北太平洋側で平年並。月降水量は東北日本海側でかなり多く、東北太平洋側で多い。月間日照時間は東北日本海側でかなり少なく、東北太平洋側で少ない。

### ( 2 ) 各旬の天候経過

**上旬：**期間の中頃は高気圧におおわれ概ね晴れたが、期間のはじめと終わりは、日本海低気圧や梅雨前線の影響により東北日本海側を中心に曇りや雨となり、大雨となったところもあった。なお、9 日は秋田県で大雨により山がけ崩れ害が発生した。また、大気の状態が不安定となり、3 日は山形県で竜巻による被害が、8 日は秋田県で突風による被害が発生した。

平均気温は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で高い。降水量は東北日本海側で多く、東北太平洋側で平年並。日照時間は東北北部で平年並、東北南部で少ない。

**中旬：**東北日本海側では、日本海低気圧や梅雨前線の影響により、北部を中心に曇りや雨の日が多かった。一方、東北太平洋側では南部を中心に梅雨前線や低気圧の影響を受けにくく、高気圧におおわれ晴れる日もあった。なお、19 日は低気圧や梅雨前線の影響で東北北部を中心に大雨となり、秋田県、岩手県、山形県で浸水害や山がけ崩れ害などが発生した。

平均気温は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で高い。降水量は東北北部でかなり多く、東北南部で少ない。日照時間は東北日本海側で少なく、東北太平洋側で多い。

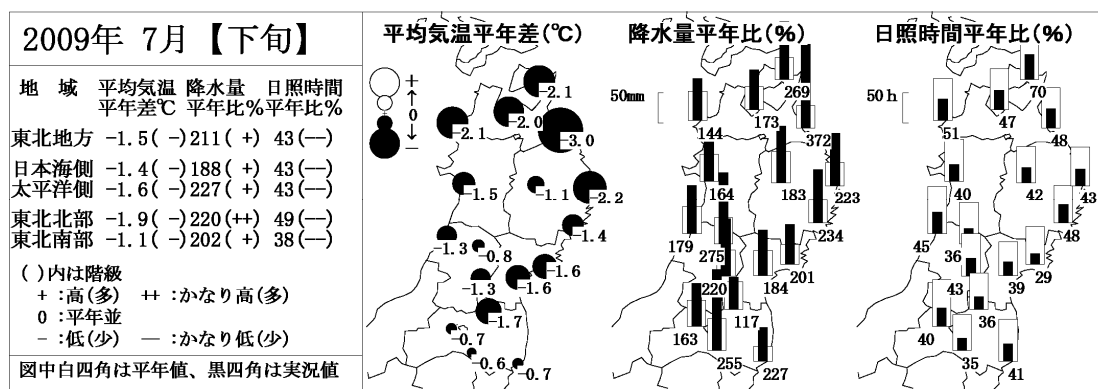
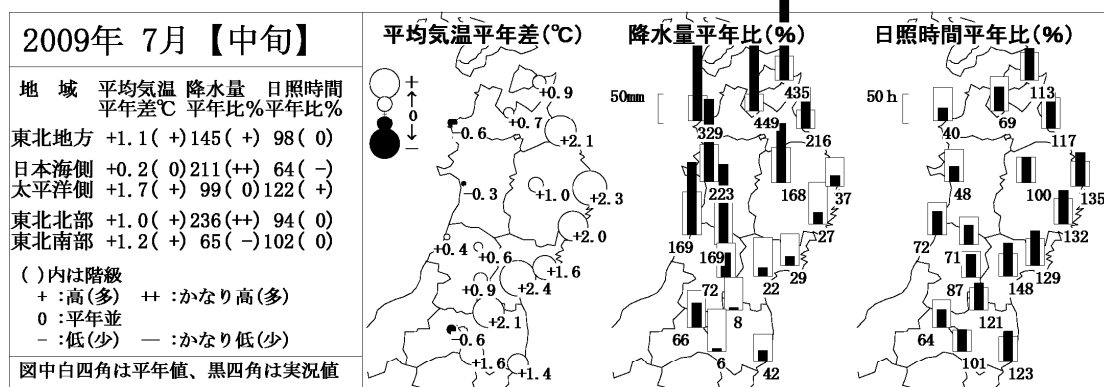
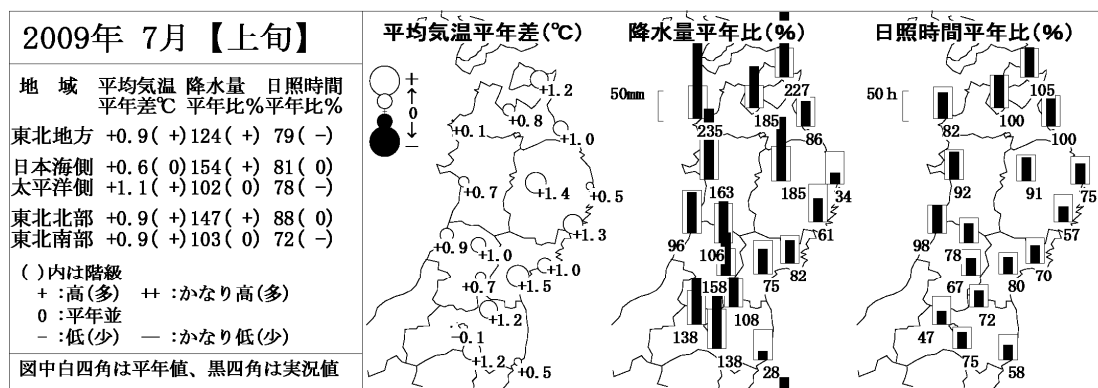
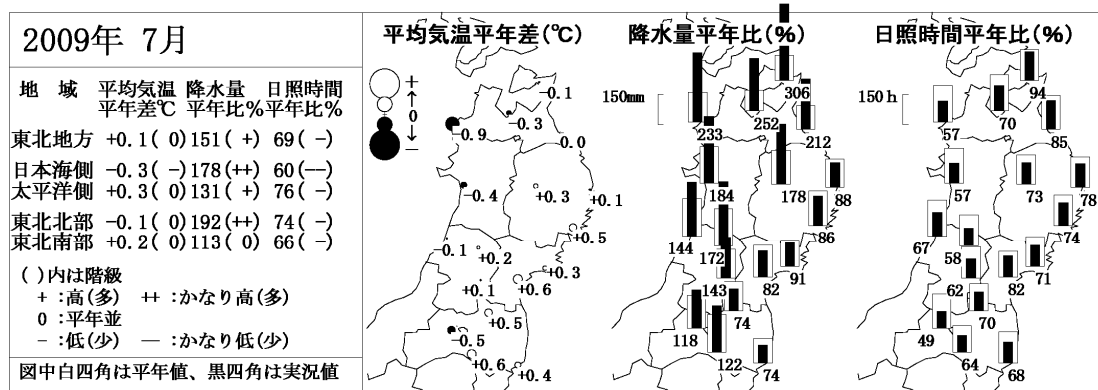
**下旬：**本州付近に停滞した梅雨前線や低気圧、湿った東風の影響により、曇りや雨の日が多かった。特に、26 日は暖かく湿った風が流れ込んで梅雨前線の活動が活発になったため、非常に激しい雨となったところもあり、岩手県、宮城県、福島県で浸水害や山がけ崩れ害が発生した。また、27 日は大気の状態が不安定となったため、岩手県で突風による被害が発生した。なお、寒気やオホーツク海高気圧からの冷たく湿った東風の影響により気温の低い日が多かった。

平均気温は東北地方で低い。降水量は東北北部でかなり多く、東北南部で多い。日照時間は東北地方でかなり少ない。

(注) 気候統計値は、東北地方にある 17 地点の气象台、測候所、特別地域気象観測所の観測値より求めています。  
細分地域については 2 ページ目脚注を参照して下さい。  
平年値の統計期間は 1971-2000 年です。階級区分については、3 ページ目脚注 2 を参照して下さい。

本件に関する問い合わせ先：仙台管区气象台技術部気候・調査課統計係（電話：022-297-8110）

(3) 2009年7月の月・旬平均(合計)値の平年差(比)



平年値の統計期間は1971～2000年。

(注) 細分地域

東北日本海側：青森県津軽、秋田県、山形県、福島県会津

東北太平洋側：青森県下北・三八上北、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り

東北北部：青森県、秋田県、岩手県

東北南部：宮城県、山形県、福島県

(4) 2009 年 7 月の月気候表

地 点 名	平均気温(平年差) 階級			降水量(平年比)階級			降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比) 階級		
	(°C)	(°C)		(mm)	(%)			(h)	(%)	
青 森	20.8	( -0.3)	—	258.5	(252)	+*	14	124.6	( 70)	—*
深 浦	20.4	( -0.9)	—	339.5	(233)	+*	18	101.0	( 57)	—*
む っ	19.5	( -0.1)	○	375.5	(306)	+*	14	142.1	( 94)	○
八 戸	20.2	( 0.0)	○	248.0	(212)	+*	15	143.3	( 85)	—
秋 田	22.4	( -0.4)	○	327.5	(184)	+*	18	98.6	( 57)	—*
盛 岡	22.1	( +0.3)	○	295.5	(178)	+*	21	104.8	( 73)	—
大 船 渡	21.5	( +0.5)	○	147.0	( 86)	○	17	111.6	( 74)	—
宮 古	20.1	( +0.1)	○	122.5	( 88)	○	19	116.4	( 78)	—
仙 台	22.7	( +0.6)	○	130.5	( 82)	○	16	105.3	( 82)	—
石 巻	21.6	( +0.3)	○	119.0	( 91)	○	16	105.0	( 71)	—
山 形	23.3	( +0.1)	○	206.0	(143)	+	17	96.1	( 62)	—*
新 庄	22.5	( +0.2)	○	318.5	(172)	+	23	89.0	( 58)	—*
酒 田	23.1	( -0.1)	○	267.5	(144)	+	22	119.9	( 67)	—*
福 島	24.0	( +0.5)	○	107.0	( 74)	○	14	92.9	( 70)	—
若 松	22.9	( -0.5)	—	188.5	(118)	○	20	82.2	( 49)	—*
白 河	22.6	( +0.6)	○	228.0	(122)	+	18	83.4	( 64)	—
小 名 浜	22.1	( +0.4)	○	89.5	( 74)	—	16	104.7	( 68)	—

(注) 1. 平年値は 1971～2000 年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

+:高い(多い)      ○:平年並      -:低い(少ない)

各階級の区分値は、1971～2000 年における 30 年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が 10 個ずつになる)ように決めた。

また、値が 1971～2000 年の観測値の上位または下位 10%に相当する場合には階級の「+」に \* を付加した。この場合には

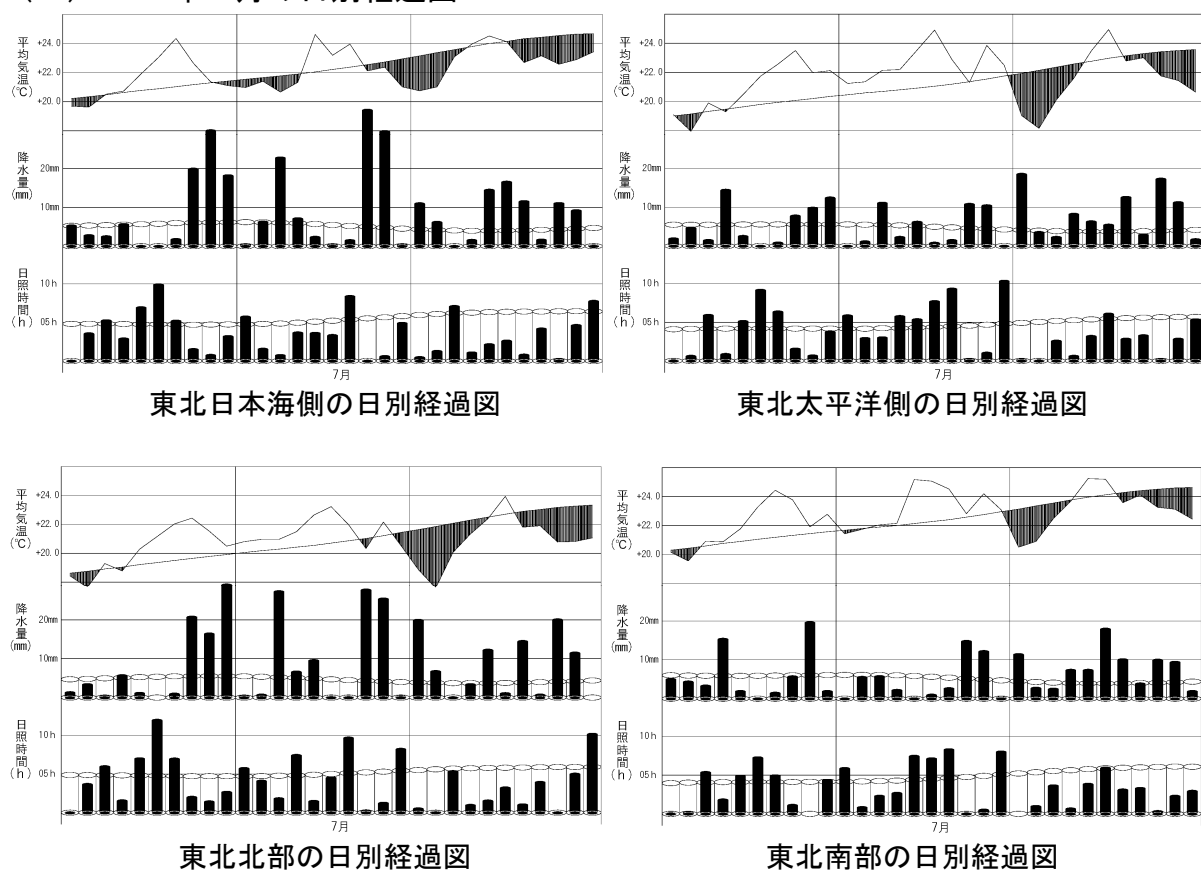
かなり高い(多い)      かなり低い(少ない)

と表現できる。

3. 値の横に ) や ] がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等が含まれていることを示す。)付きの値(準正常値)は通常のものと同様に扱うことができるが]付きの値(資料不足値)については、値の下に記載した統計日数(統計に用いた、品質が十分な日別値の数)を参考にして、品質を確かめてから使用されたい。

なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

## (5) 2009 年 7 月の日別経過図



気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均（気温：実線と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱）

## (6) 2009 年 7 月の極値・順位の更新

※順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

月平均気温高い方からの順位更新

3 位以内はなし

月平均気温低い方からの順位更新

3 位以内はなし

月降水量多い方からの順位更新

順位	地点名	降水量 mm	平年比 %	これまでの最大 mm (西暦年)	開始年	平年値 mm
1	むつ	375.5	306	292.5 (1987)	1935	122.8
2	深浦	339.5	233	414.0 (1940)	1940	146.0

月降水量少ない方からの順位更新

3 位以内はなし

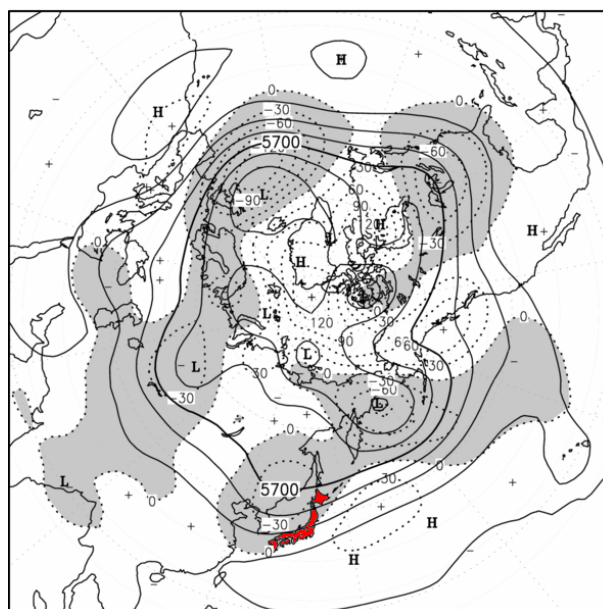
月間日照時間多い方からの順位更新  
3位以内はなし

月間日照時間少ない方からの順位更新  
3位以内はなし

(注) 平年値とは 1971～2000 年の 30 年間の値を平均したものである。

### (7) 2009 年 7 月の循環場の特徴

500hPa 高度の月平均では、沿海州が気圧の谷となり負偏差がオホーツク海からベーリング海にかけて広がった。低気圧が北日本付近を頻繁に通過したことに対応している。一方、日本の東や日本の南は正偏差となったが、太平洋高気圧の日本付近への張り出しは平年より弱かった。日本付近は西谷で、南よりの暖かく湿った空気が流れ込みやすく、本州付近に位置した梅雨前線の活動が活発だったことに対応している。



2009 年 7 月の平均 500hPa 高度

実線は等高線：60m 毎、点線は偏差：30m 毎  
陰影部は負偏差（寒気に対応）

### (8) 2009 年の梅雨明けの状況（速報値）

(2009 年 8 月 3 日 11 時現在)

■ 平成 21 年の梅雨明け					
地方	平成 21 年	平年差	昨年差	平年	昨年
沖縄	6 月 28 日ごろ	5 日遅い	11 日遅い	6 月 23 日ごろ	6 月 17 日ごろ
奄美	7 月 5 日ごろ	7 日遅い	3 日遅い	6 月 28 日ごろ	7 月 2 日ごろ
九州南部	7 月 12 日ごろ	1 日早い	6 日遅い	7 月 13 日ごろ	7 月 6 日ごろ
九州北部	----	----	----	7 月 18 日ごろ	7 月 6 日ごろ
四国	7 月 31 日ごろ	14 日遅い	25 日遅い	7 月 17 日ごろ	7 月 6 日ごろ
中国	----	----	----	7 月 20 日ごろ	7 月 6 日ごろ
近畿	8 月 3 日ごろ	15 日遅い	22 日遅い	7 月 19 日ごろ	7 月 12 日ごろ
東海	8 月 3 日ごろ	14 日遅い	22 日遅い	7 月 20 日ごろ	7 月 12 日ごろ
関東甲信	7 月 14 日ごろ	6 日早い	5 日早い	7 月 20 日ごろ	7 月 19 日ごろ
北陸	----	----	----	7 月 22 日ごろ	8 月 6 日ごろ
東北南部	----	----	----	7 月 23 日ごろ	8 月 6 日ごろ
東北北部	----	----	----	7 月 27 日ごろ	8 月 5 日ごろ

(注) 梅雨は季節現象であり、その入り明けは、平均的に 5 日間程度の「移り変わり」の期間があります。ここに掲載した期日は移り変わりの期間の概ね中日を示しています。

「平年」は、平成 12 年（2000 年）までの過去 30 年の平均（入り・明けを特定しなかった年は除外）の日付です。